

## 28Q-am249

飲料中 AGEs 及び糖含有量から生活習慣病の発症・進展予防を考える

○白井 ひかり<sup>1</sup>, 河上 美穂子<sup>1</sup>, 有賀 実穂<sup>1</sup>, 稲葉 典子<sup>1</sup>, 遠藤 加奈子<sup>1</sup>,  
大森 麻由<sup>1</sup>, 小原 直人<sup>1</sup>, 竹内 正義<sup>1</sup>(<sup>1</sup>北陸大薬)

これまで AGEs (advanced glycation end-products, 終末糖化産物) は, 糖尿病血管合併症の発症・進展に直接関与するものと考えられてきたが, 最近では認知症, がん, 高血圧, 非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) などの疾患にも関与することが明らかとなってきたり, AGEs を抑えることが生活習慣病の発症・進展の予防及び治療戦略上, 必要なことがわかってきた。

一方, 飲食品中の AGEs は腸管から吸収された後, 循環血液中や組織中で作用し, 糖尿病血管合併症をはじめとする様々な疾患の発症・進展に関わることが報告されている。

そこで, 今回私達は, 各種 AGEs (glucose-derived AGEs (AGE-1), fructose-derived AGEs (Fru-AGE) & glyceraldehyde-derived AGEs (AGE-2)) 特異抗体, 及び N-(carboxymethyl)lysine (CML) 抗体を用いた競合 ELISA 法により, 約 700 種類に及ぶ市販飲料 (炭酸飲料, 乳酸菌飲料, 乳飲料, 果樹入り飲料など) 中の各種 AGEs 及び CML 量を測定した。

その結果, 数多くの飲料中に各種 AGEs (その中でも AGE-1 含有量が多い) が含まれていることが判明し, 特に, 乳酸菌飲料や炭酸飲料で高値を示すものが多いことが明らかになった。さらに, 飲料中の糖度及びぶどう糖濃度も併せて測定し, 飲料中 AGEs 及び糖含有量の比較検討から生活習慣病の発症・進展に及ぼす飲料の影響について考察を加えた。

(関連発表: 河上&竹内)